

日本消化器外科学会雑誌編集後記

日本消化器外科学会雑誌第 47 巻第 9 号をお届けいたします。本号は、原著 1 編、症例報告 11 編の計 12 編と、比較的充実した内容となっています。

さて、今年の夏は猛烈な勢いをもつ台風の直撃に加え、ゲリラ的超集中豪雨と、これまでの常識を遥かに超える自然の力が人間社会に襲いかかってきた感があります。関西では夏の夜空を彩る淀川や猪名川の花火大会も相次いで中止となりました。いつもは清流で有名な四万十川や古都を流れるせせらぎの鴨川が濁流と化しているのをニュースで見ると自然の恐ろしさを痛感させられます。猪名川の豪雨の直後に川を併走する道路を車で通ったのですが、危険水位を越えてうねりを上げ、すさまじい勢いで流れる様に身の危険を覚えると共に自然の怒りを感じました。そして追い打ちをかけるように広島市での土石流被害・バックビルディング現象が集中して発生したとのことですが、これまでの常識が全く通用しない状況での対応・判断が求められ、結果的に大きな被害に繋がったようです。

人間は、努力と経験から知識を得て科学を生み出し、それを発展させて我々の生活や社会を豊かにしてきましたが、この地球上に生をなすのは人間だけでないことを今一度認識し、人間の都合で環境を変えるのではなく、地球が望む環境に我々が共存できる様に科学を応用していかなければならないのではと考える今日この頃です。自然界の怒りが静まりますことを願いつつ、これらの自然災害でお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、8 月 20 日に今後の本誌の方向性や査読基準ならびに投稿数アップへ向けた戦略などを検討すべく、日本消化器外科学会事務所会議室にて編集会議が行われました。外は猛烈に暑い日でしたが、会議室の中も外に負けじと熱い議論が飛び交いました。我が国最高の邦文誌を維持しつつ、投稿数も増やしたい、また英文誌の今後の在り方を検討するという動きもあって邦文誌の位置づけが微妙になるなどさまざまなジレンマの中で意見交換が行われました。ただ、委員に共通しているのは採用率を厳しくするのではなく、丁寧に査読し、著者と一緒になって修正して採用に値する論文に仕上げていくのが我々の仕事であるという認識です。ぜひ最初からあきらめたりせずに、貴重な経験症例があればどんどん投稿していただきたいと思います。若い先生方にとって論文が受理されたことが大きな status であり、自信になるような学会誌になればと願っています。

では、今後も原著論文は勿論、貴重な症例経験など若い先生方の積極的な投稿をお待ちしています。そして皆さんと共に胸を張れる学会誌にしていきたいと思います。

(安田 卓司)

2014 年 9 月 1 日